

# 稲作だより

第 3 号 育苗編

令和 8 年 4 月 6 日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部 最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1330

本格的な育苗作業が始まります。温度管理とばか苗病対策を徹底しましょう！

## ◎種子消毒 ～使用方法を遵守して適切に処理しましょう～

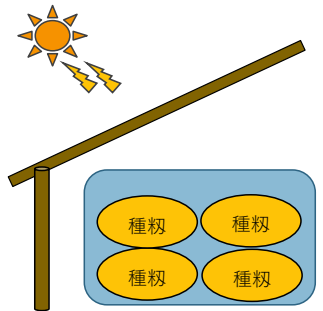
- ・薬剤による消毒 → 薬剤のラベルを確認し、希釈倍率・処理時間を厳守しましょう。
  - ・温湯消毒★ → 「60℃15分」を厳守しましょう。
  - ・生物農薬★ → 種籾の表面に付着した微生物が流れないように取り扱しましょう。
- ★薬剤による消毒より効果が劣ります。温湯消毒と生物農薬の組み合わせが効果的です。

- ・処理後は清潔な場所に保管することでばか苗病菌の再感染を防ぎましょう。ばか苗病対策は第2号：ばか苗病対策編に掲載しています。詳しくは下記 URL を参考にしましょう。

URL <https://agrin.jp/documents/7158/260311inasaku02.pdf>

## ◎浸種 ～きめ細やかな温度管理に努めましょう～

- ・水温 10℃～15℃で積算水温 100℃～120℃を基本としましょう。また、浸種期間中に2～3回水を交換しましょう。
- ・浸種時は直射日光等で水温が温まりやすい場所は避けましょう（芽の伸びすぎやばか苗病菌が増える要因となります）。
- ・浸種時は水槽にふたをして粉じん（ばか苗病菌がひそんでいる可能性があります！）が入らないようにしましょう。



## ◎催芽 ～芽の出具合で出芽揃いが決まる～

- ・30℃～32℃で20時間程度を目安としましょう。
- ・催芽後の種籾はハト胸状態（右図）にしましょう。長時間の催芽は芽が伸びすぎ、芽切れや播種機の詰まりを引き起こします。



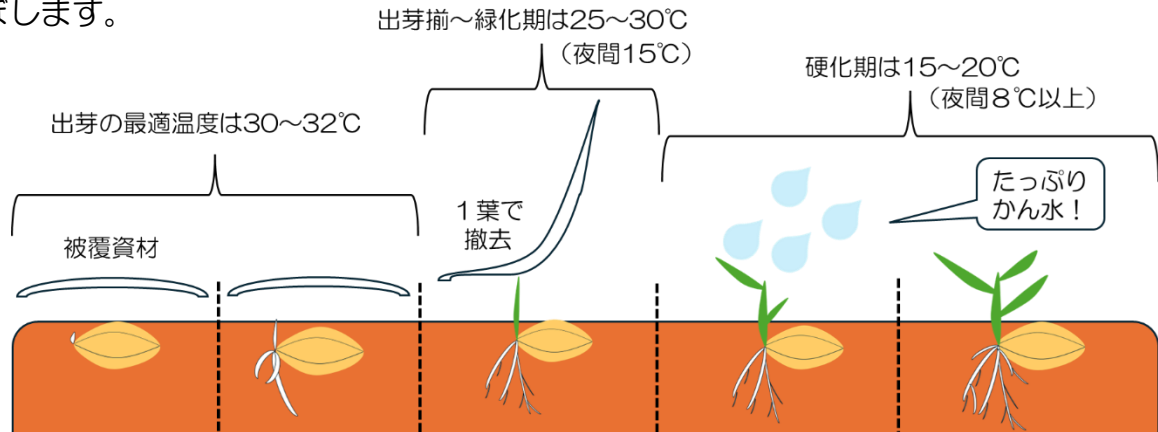
## ◎播種 ～種籾、培土、水量は適切な量で～

- ・苗の種類によって種籾量を調整しましょう（下表）。
- ・自分で調製した培土はN-P-Kの割合（2g/箱）、pH（4.5～5.5）を確認しましょう。
- ・播種時のかん水不足は出芽不良や不揃いの原因となります。たっぷりとかん水を行いましょ。

苗の種類	乾燥籾重	催芽(ハト胸)籾重	箱数/10a	育苗日数	葉数
中苗	80～120g	100～150g	30	<u>30～35日</u>	<u>3.2～3.5</u>
稚苗	150～180g	188～225g	25	<u>20～25日</u>	<u>2.2～2.5</u>
高密度播種苗	250～300g	313～375g	～15	<u>15～20日</u>	<u>2.0～2.2</u>

## ◎育苗管理 ～健苗育成が高品質・良食味米生産の第1歩～

- 育苗日数（前表）を守り、苗丈を伸ばしすぎないようにしましょう。丈が伸びすぎた苗（徒長苗）は移植後の初期生育が確保しにくくなります。
- **出芽が揃ったら被覆資材は撤去しましょう。** 被覆期間が長いと徒長苗の原因になります。
- かんすいは朝にたっぷり行いましょう。夕方以降のかん水は地温を下げ、生育に影響を及ぼします。



### R7 育苗の失敗例・・・

#### 失敗例①



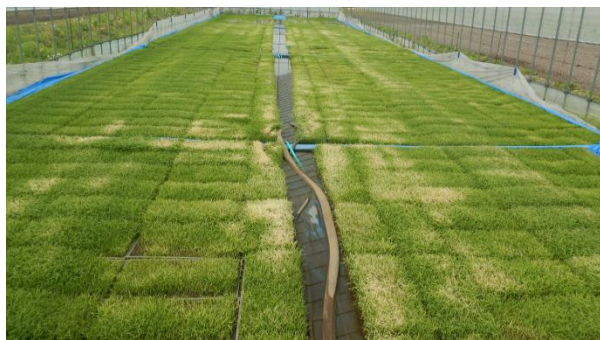
ハウス内の温度が高かったが、被覆資材を過信して換気を行わなかった。



被覆資材の下で苗ヤケが発生した（資材の下も高温になっていた）。

※近年は育苗の期間が高温で遮光シートや被覆資材を使用してもハウス内の温度が上昇します。

→ 適切に換気を行いましょう。



#### 失敗例②



ハウス内の温度が低く、苗丈を伸ばすために被覆期間を延長した。



被覆資材を剥がしたらカビが発生していた。

※被覆資材の下が低温過湿となり、カビが増殖する適温となった。

→ 一時的に被覆資材を剥がして過湿を解消しましょう。



気象に応じた臨機応変な管理を！迷ったらまずは相談を！